探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：尾道市立長江中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
尾道市立長江中学校	８	２００
尾道市立長江小学校	８	１４３
尾道市立土堂小学校	１１	２１６

（R4.11.1現在で記入）

１　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

○テーマ

「答えのない問い」に果敢に挑戦し、他者と協働して
自分たちなりの価値ある答えを見出す探究的な学習の創造

○研究のねらい

①PBLの視点を入れた単元開発
②各単元における評価基準の整理、精選
③９年間を見据えた生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの整理・作成

（２）資質・能力の設定について

中学校区で共通認識をもって児童生徒を育成するために「９年間のゴール、中学校３年生で育成を目指す姿」を、「答えのない問い（解が１つではなく条件の中で複数の視点から考えられる問い）に対して、自ら進んで解を導き出し、それを交流することができる。その際、他者の解とすりあわせながら、現時点で考えられる最適解を導き出せる。」と設定した。

そして、「９年間のゴール、中学校３年生で育成を目指す姿」を踏まえながら、３校の児童生徒の実態を把握していく中で「中学校区で共通して育成したい資質・能力」を「主体性・協働性」と設定した。

（３）取組について

○PBLの視点を入れた単元開発

PBL（Project Based Learning）について、「答え（ひとつの解）のない問い」を扱う学習、実生活・実社会の課題を解決する学習、社会へ還元する学習という共通認識を中学校区全体でもち、

①児童生徒が自分事として考えることができるテーマの設定
②児童生徒と共有、調整していく単元計画の作成
③多様な視点、新しい課題に気付かせるショック（新たな「えっ!?なぜ？」）の場面の設定
④多様な視点、考え方（実生活・実社会）に触れさせるための地域人材の活用

の４点を意識した単元開発に取り組んだ。

○各単元における評価基準の整理、精選

「中学校区で共通して育成したい資質・能力」として設定した「主体性・協働性」の発揮された姿を中学校区の教職員で話し合って整理し、それをもとに、児童生徒が主体性・協働性の高まりを自覚し、形成的評価（授業者の授業改善、学習者の学習改善）へと繋げるためのルーブリック（評価基準表）を作成した。

まずは、教師が各単元の児童の目指す姿を考え、単元ごとのルーブリックを作成し、単元の途中で、資質・能力が高まった姿を児童と共に考え、児童の言葉で整理したルーブリックへと修正、更新していった。

○９年間を見据えた生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの整理・作成

カリキュラムの縦の関連性（学年間の関連性）を意識できるように、小学校１年生から中学校３年生までの９年間の繋がりが見える「長江中学校区　生活科・総合的な学習の時間カリキュラム」の作成を進めた。

２　実践事例

○尾道市立土堂小学校　第３学年

「思いや願いを受け継ぐ　尾道の祭り」

・児童が自分事として考えることができるテーマの設定

児童にとって身近な地域の祭りをテーマに導入することで、児童は問いをもちやすく、「もっと知りたい」と探究の動機づけをすることができた。

・多様な視点、考え方（実生活・実社会）に触れさせるための地域人材の活用
・多様な視点、新しい課題に気付かせるショックの場面

児童が知りたいと思ったことを地域の方に聞く中で、新たな課題と出合った。児童は「ベッチャー祭りがなくなってしまうかもしれない」と真の解決すべき課題を知ることで、探究のプロセスを意識した学習をスタートすることができた。

・児童と共有、調整していく単元計画の作成

児童はこの課題がなぜ起きているのか、それらを解決するために自分たちができることややるべきことは何なのかを考え、単元計画を作成した。収集した情報をチラシにまとめ、ベッチャー祭りでかぶられているお面を自分たち用にアレンジして作成した物をかぶり、商店街を練り歩くことができた。

○尾道市立長江小学校　第６学年

「みつめよう　つなげよう　未来へ続く
ぼくたちわたしたちの尾道」

・児童が自分事として考えることができるテーマの設定

単元導入場面で、児童のこれまでの学習経験や生活経験をもとに意見を交流させ、児童の興味・関心をスタートにしたテーマ、課題を設定させた。一人一人の児童の経験や思いから出てきた多様な意見について、探究する目的を交流し、「みんなの意見がより含まれる」「より（他の目的と）つながりがある」という視点で話し合い、６年生のテーマ、課題として一つに絞っていった。

・児童と共有、調整していく単元計画の作成

自分たちで設定したテーマ、課題の解決に向けて、探究のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）を基に単元計画を児童が考えた。また、学習の途中でも児童自身の気付きを生かしながら計画をブラッシュアップしていった。

・多様な視点、考え方（実生活・実社会）に触れさせるための地域人材の活用

「尾道をよりよい町にする」ために、様々な視点で考えた解決方法を、尾道市役所の方との意見交換会で提案する場を設定

した。市役所の方から提案への評価を伺い、自信をもつとともに、「自分たちが実際に行動して尾道をより良くするためには何ができるだろうか」という新たな課題をもち、次の学習へと繋げていった。

○尾道市立長江中学校　第２学年

「 自分の生き方を考えよう

～修学旅行先での様々な出会いから社会を知り、

課題解決に向けて一歩を踏み出そう～」

・２学年特有の行事とからめた単元づくり

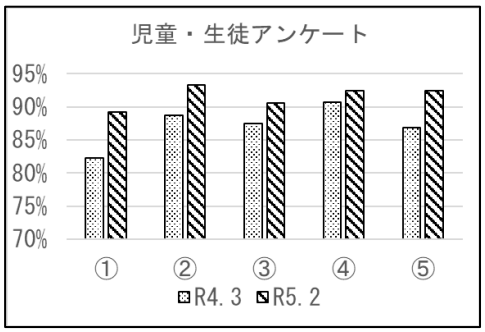
２学年が行う、職場体験、修学旅行、立志式を１つの流れとし、生徒のこれまでの学習経験や生活経験をもとに意見を交流しながら、どんなことを探究したいか考えていった。「自分はどう生きるのか」を大きなテーマとし、その時の最適解を模索していけるようにした。

・多様な視点、新しい課題に気付かせるショックの場面

「修学旅行先での様々な出会いから社会を知り、自分の生き方を考える」ために、様々な視点で考えた質問を、地域の先生方が集まる場で実際に聞いてみる場を設定した。地域の先生方からアドバイスや評価をいただき、完璧だと思っていたことも、違った視点があることや、情報が足りないことに気付き、次に何をするべきか新たな課題に気付くことができた。

これまでの学習を振り返り、自分の生き方について考えを深めたことを、立志宣言文にまとめる活動へと繋げた。

３　研究の成果と課題等



①話し合いに参加するときには自分の考えをもつことができています。（主体性）

R4年3月 82%　　R5年2月 89%

②課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいます。（主体性）

R4年3月 89%　　R5年2月 93%

③話し合いのときには友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかり伝えています。（協働性）

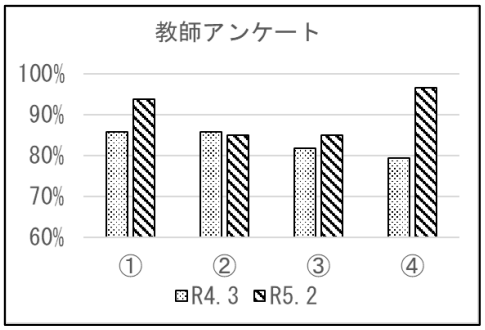
R4年3月 87%　　R5年2月 91%

④かかわりを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。（協働性）

R4年3月 91%　　R5年2月 92%

⑤「生活科・総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。（探究的な学習）

R4年3月 87%　　R5年2月 92%



①児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができています。（主体性）

R4年3月 86%　　R5年2月 94%

②児童生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。（協働性）

R4年3月 86%　　R5年2月 85%

③授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れています。（探究的な学習）

R4年3月 82%　　R5年2月 85%

④生活科・総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしています。（探究的な学習）

R4年3月 79%　　R5年2月 97%

（１）成果

児童生徒アンケートにおいて、「中学校区で共通して育成したい資質・能力」である「主体性・協働性」の向上を見取ることができた。

ルーブリックを活用した振り返りの記述にも、主体性・協働性を意識した言葉や、自身の成長や変容を自覚する記述が増えた。

また、教師アンケートにおいて、探究の過程を意識した指導をしている教師の割合が大きく向上し、授業づくりに対する教師の意識変革を進めることができた。

（２）課題

児童生徒アンケート、教師アンケート、どちらにおいても「かかわりを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすること」に関して、数値の向上があまり見られなかった。児童生徒自身が主体性・協働性を発揮したり、その高まりを自覚したりする手立てが不十分だった。

（３）今後の改善方策等

・主体性・協働性が発揮される学習場面の設定

今年度開発した単元を基に、課題の解決に向けて、自分の考えをもち、他者とかかわりながらその考えを更新していく必然性、必要性がある単元づくりを進める。

・ルーブリックを活用した振り返り場面の重点化と教師によるフィードバック

児童生徒が自身の主体性・協働性を自覚することができるルーブリックを活用した振り返りを単元の中で計画的に設定していく。また、教師もルーブリックを活用した振り返りを正しく見取り、フィードバックしながら単元の改善を進められるようにする。